

富加町まちづくりの会（富加町）

農山村

地域づくり・自然

取組の背景

- ・平成15年8月、富加町が新市建設計画及び町総合計画の策定に際し、町民の意見を聞く場として「富加町まちづくりガヤガヤ会議」を開催し、委員を公募した（8人）。
- ・同年11月、ガヤガヤ会議は終了したが、会議メンバーのうちの有志（3人）が、合併が頓挫した町のこれからやまちづくりなどについて考え、活動する場として「富加町まちづくりの会」（事務局：町総務課企画グループ）を発足させた。
- ・その後、会員の出入りがあり、現在11人が活動中である。

取組の概要

富加町の今後のまちづくりや地域おこしを考え、町民の生の声を行政に反映させることを目的に活動。

事務局は富加町総務課企画グループ。会員は、会社員、公務員、自営業、無職（退職後）など様々であり、現在11人が活動中。

事務局を務める粥川氏は、役場の総務課企画グループ長として会の活動をサポートし、会の運営を手助けしている。

取組の内容

月に1回月例会を開催し、具体的な活動を検討。

- ・まちづくりの一環として「炭焼き」によるまちおこし（里山保全と自然学習）を企画。町に要望し、半布ヶ丘公園内に2基の炭焼窯を建設（平成16年9月完成：双子窯）。まちづくりの会が管理運営。
- 町民の自然学習の場としての利用とともに、炭焼きにより会の収入を得て活動資金にしようとしたが、採算が合わず失敗。現在は、学校・自治会等の炭焼き体験として、まちづくりの会が運営。

- ・広く町民の声を聞き、行政に伝える方法として「まちづくりセミナー」を平成16年度から開催。講演会やワークショップ、意見交換会を行うことにより、住民がまちづくりについて学習するとともに、町行政に期待する施策や事業について生の声を発掘することを目的に開催。

→H16 4回シリーズで学習会を開催。

H17 講演会や竹林整備に関するワークショップを1回開催。このときの提案により、「里山まつり」を企画。

まちづくりセミナーによる提案をもとに、「里山まつり」を計画。「発見！であい！ふれあい」をテーマに半布ヶ丘公園一体を会場に、町内のまちづくり関係団体に呼びかけ、体験型の祭りを開催する予定。

（追記）

→平成19年3月4日（日）に開催。

里山探訪、町内のボランティア団体等による五平餅・インド料理などの食事の販売や、しめ縄づくり・木工体験などの体験会が行われた。また、平成16年に富加町まちづくりの会で建設した炭焼き釜「半布里 双子窯」の炭焼き紹介や隣接するピザ窯での窯焼きピザづくり体験、試食会、その他、太鼓グループ「半布里太鼓」による演奏、よさこい鳴子踊りグループ「半布里」、自主グループ「シルバー健康クラブ」による演舞の披露や、ビンゴゲームなどのイベントも行われ多くの人たちで賑わった。



里山まつりの模様（H19.3.4）

成果

- ・平成15年に発足したばかりの会であり、今後の活動が期待される。
- ・まちづくりセミナーの開催により、会員以外の町民の中にもまちづくりに関する意識が芽生え、新たな活動に対する提案もあった。

成果の要因

- ・町事務局による活動に対するフォローが活動を支えている。
- ・町民の生の声を聞いて、町行政に反映させたいという会員の思いと町行政側の後押しが一致し、里山まつりの実施に結びついたものである。

今後の課題

- ・会としての活動目標の明確化
→会の発足が、ガヤガヤ会議の公募であったため、町行政に対する思いが各人それぞれであったこともあり、現在に至るまで会としての活動の目標、方向性が定まっていない。
NPO法人化も検討したが、会としての収入がないこと、会計処理ができないこと、町頼みの運営であることなどから、法人化を断念した経緯もある。
したがって、会員自身の思いややりたいことを明確にし、継続性のある活動を進めていく必要がある。
- ・町行政からの独立
→現在は、町総務課が事務局を行い、会の運営や行事の段取り等を手配しているのが現状である。会としての自主性とリーダーシップを発揮し、会の活動方針を理解した新規会員を増やしていく必要がある。
経済的にも、会の活動には町からの特定の運営費補助はなく、まちづくりセミナーなども町からの委託事業として行っている。
会独自の収入もなく会としての事業はすべて町からの事業によるところが大きいことから、今後は何らかの収入を得る必要があ

る。

また、現在は、町職員が事務局を務めているため、会の運営が保たれ、企画が進められるが、事務局が自前となった場合、現在と同様の事務が行いえるかどうか疑問である。

- ・町側のスタンスの明確化

→町は、本会について、「富加町には他にない組織であり、活動には期待している」としている。会の活動目的の1つが町行政に町民の生の声を届けるというものであることから、会に対し行政計画等についての感想や考えを求めたり、イベント時に町行政に関するアンケートを会と連名で行ったりしている。

しかし、これらのことが、会の自主的な運営を妨げるとともに町への依存を大きくしている反面もある。

町としては、会がまちづくりを担っていくとともに町政への提言ができるぐらいの団体に大きく育つように期待している。

また、今年度初の試みとして会が主体となって行う「里山まつり」を成功させることにより、会員が一致団結し、新たな会員の参加を得て会が成長できるよう支援を行っている。

この人にお話をうかがいました！

富加町まちづくりの会

富加町総務課企画グループ長 粥川 友和さん

調査日：平成18年10月25日（水）

調査者：中濃振興局 山田